

友の会講演会(大阪)

開催年月日	回	講師	タイトル	会場参加者	オンライン	備考
1978年6月10日	1	関本照夫	ジャワの影絵芝居	108	—	
1978年7月8日	2	守屋 毅	長浜の山車	85	—	
1978年8月12日	3	杉田繁治	コンピュータ民族学入門	119	—	
1978年9月9日	4	杉本尚次	西サモアのすまい	118	—	
1978年10月14日	5	石毛直道	ハルマヘラ島の食生活	102	—	
1978年11月11日	6	藤井知昭	シルクロードの民族音楽	115	—	
1978年12月9日	7	中村俊亀智	日本の運搬具	76	—	
1979年1月13日	8	吉本 忍	インドネシアの更紗	144	—	
1979年2月1日	9	大森康宏	ジブシーの家馬車	127	—	
1979年3月10日	10	小山修三	砂漠の考古学	138	—	
1979年4月14日	11	須藤健一	男の世界・女の世界—サタワル島の場合	114	—	
1979年5月12日	12	小川 了	西アフリカの楽器—リユート	92	—	
1979年6月9日	13	松山利夫	山村の食事文化から—杓子の世界	120	—	
1979年7月14日	14	端 信行	仮面の生態学—カメルーンの調査から	125	—	
1979年8月11日	15	大胡 修	海士・海女	109	—	
1979年9月8日	16	守屋 毅	日本人と祭	140	—	
1979年10月13日	17	吉本 忍	インドネシアの緋	124	—	
1979年11月10日	18	江口一久	フルベ族とヒョウタン器	90	—	
1979年12月8日	19	中牧弘允	日本の神々のイメージ—神の象徴の捉え方	111	—	
1980年1月12日	20	小谷凱宣	アメリカ原住民の芸術	111	—	
1980年2月9日	21	藤井龍彦	マヤ族の過去と現在	136	—	
1980年3月8日	22	杉村 棟	ベルシャの工芸	160	—	
1980年4月12日	23	加藤九祚	シルクロードのソグド美術	157	—	
1980年5月10日	24	中山和芳	食人の民族学	134	—	
1980年6月14日	25	和田祐一	言語をととして文化を探る	157	—	
1980年7月12日	26	小谷凱宣	北米・北西部の狩猟採集民—北西海岸インディアンについて	124	—	
1980年8月9日	27	秋道智彌	ミクロネシアの航海術	101	—	
1980年9月13日	28	山本紀夫	インカ以前の土器文様みるアンデス農耕文化	117	—	
1980年10月11日	29	佐々木高明	掘棒と鋳と犁	76	—	
1980年11月8日	30	櫻井哲男	インドネシアの音楽と楽器	110	—	
1980年12月13日	31	加藤九祚	北方ユーラシアの草原美術	162	—	
1981年1月10日	32	石森秀三	サタワル島の民族医学	104	—	
1981年2月14日	33	森田恒之	モノの保存と文化	108	—	
1981年3月14日	34	大塚和義	アイヌの木彫技術	125	—	
1981年4月11日	35	君島久子	苗族の生活とその伝承	128	—	
1981年5月9日	36	煎本 孝	カナダ・インディアンのトナカイ料理法	97	—	
1981年6月13日	37	小谷凱宣	アメリカ南西部のインディアン文化	107	—	
1981年7月11日	38	小山修三	木皮画と砂画	104	—	
1981年8月8日	39	和田正平	アタコラ山地民の信仰と生活	82	—	
1981年9月12日	40	黒田悦子	メソアメリカの巡礼について	98	—	
1981年10月17日	41	伊東一郎	ロシア民謡の民族学	112	—	
1981年11月14日	42	松澤員子	高砂族の酋長制とその象徴	100	—	
1981年12月5日	43	周 達生	中国諸民族の食事文化	148	—	
1982年1月9日	44	友枝啓泰	アンデス高地の農牧民	122	—	
1982年2月13日	45	田辺繁治	聖者と匪賊—タイにおける農民の抵抗	96	—	
1982年3月14日	46	井狩彌介	スリランカの仮面の世界	107	—	

友の会講演会(大阪)

開催年月日	回	講師	タイトル	会場参加者	オンライン	備考
1982年4月10日	47	大丸 弘	ヨーロッパ人の肉体観	118	—	
1982年5月8日	48	福井勝義	東アフリカ遊牧民の世界	107	—	
1982年6月12日	49	長野泰彦	ネパール・ガンダキ水系の民族と言語	114	—	
1982年7月10日	50	八杉佳穂	マヤ文字解読の歴史	151	—	
1982年8月14日	51	庄司博史	フィンランド—西と東の文化圏	105	—	
1982年9月11日	52	竹村卓二	山の神とまれびと—日本と周辺の民俗信仰	113	—	
1982年10月9日	53	宮本 勝	ミンドロ島・マンギャン族のもめごと解決法	85	—	
1982年11月13日	54	大塚和義	サハリン郷土博物館にみる北方少数民族文化	105	—	
1982年12月4日	55	栗田靖之	ヒマラヤの王国—ブータン—ヤクとイネをそだてる人びと	140	—	
1983年1月8日	56	杉本尚次	西サモア村落の変化(1965～1980)	85	—	
1983年2月12日	57	松原正毅	遊牧の世界—トルコ系遊牧民の民族誌から	120	—	
1983年3月19日	58	吉田集而	インドネシア・トラジャ族—民族の自己同定としての家	85	—	
1983年4月9日	59	守屋 毅	外国人のみた明治の日本—エドワード・モースのコレクションをめぐって	110	—	
1983年5月14日	60	大森康宏	民族誌映画—撮る側と撮られる側	83	—	
1983年6月11日	61	祖父江孝男	日本人はどう変わったか—心理人類学の立場から	161	—	
1983年7月9日	62	岩田慶治	日本文化のふるさと	135	—	
1983年8月13日	63	伊藤幹治	沖縄文化の底流	79	—	
1983年9月10日	64	小山修三	現代オーストラリアの民族芸術	109	—	
1983年10月8日	65	櫻井哲男	韓国の音の文化	74	—	
1983年11月12日	66	端 信行	仮面の王国再訪	72	—	
1983年12月3日	67	松山利夫	オーストラリア・アーネムランドのむらと生活	77	—	
1984年1月3日	68	石森秀三	ミクロネシアの貨幣	78	—	
1984年2月4日	69	友枝啓泰	アンデスの祭と歌	92	—	
1984年3月10日	70	野村雅一	イタリア人気質の歴史	89	—	
1984年4月14日	71	江口一久	西アフリカ昔々—語りの世界を求めて	109	—	
1984年5月12日	72	加藤九祚	シルクロードのクシャン美術	125	—	
1984年6月9日	73	和田祐一	ニューギニアにみる英語の未来—ビジン語成立の背景	71	—	
1984年7月14日	74	秋道智彌	沖縄・海人の世界	68	—	
1984年8月11日	75	杉田繁治	第5世代の民族学	66	—	
1984年9月8日	76	藤井龍彦	ジャガイモひと山とアメふたつ—ボリビア高地の物々交換	70	—	
1984年10月6日	77	石森秀三	よばいの民族学	83	—	
1984年11月10日	78	黒田悦子	スペインの祝祭—モロとクリスティアノスの祭り	65	—	
1984年12月1日	79	杉村 棟	ベルジャ絵画にみる東西文化の交流	88	—	
1985年1月12日	80	大塚和夫	エジプトのイスラーム教徒の生活	101	—	
1985年2月9日	81	須藤健一	オセアニア社会の贈与交換	45	—	
1985年3月9日	82	片倉もとこ	中東女性の素顔	133	—	
1985年4月12日	83	杉本尚次	大阪の民家とくらし	89	—	
1985年5月11日	84	大給近達	アマゾンはいま—未開と開発のはざま	72	—	
1985年6月8日	85	森田恒之	うるしとニカワ	65	—	
1985年7月13日	86	中村たかを	くるま(回転機)の民族技術	48	—	
1985年8月10日	87	竹村卓二	木地屋とヤオ族—“一処不常”の客民の世界	64	—	
1985年9月14日	88	福井勝義	攻撃性と文化	58	—	
1985年10月12日	89	吉本 忍	バリ島の聖なる織物と儀礼	89	—	
1985年11月9日	90	庄司博史	ソ連邦のウラル系民族	74	—	
1985年12月7日	91	藤井知昭	演歌と日本人—音楽の人類学	53	—	
1986年1月9日	92	小川 了	フランス料理と血の腸詰めの話	63	—	

友の会講演会(大阪)

開催年月日	回	講師	タイトル	会場参加者	オンライン	備考
1986年2月8日	93	久保正敏	民族学と情報科学	72	—	
1986年3月8日	94	和田正平	アフリカ女性の性と婚姻	82	—	
1986年4月12日	95	大塚和義	狩猟民オロチョン族の生活	83	—	
1986年5月10日	96	垂水 稔	すまいと結界	64	—	
1986年6月7日	97	松澤員子	台湾山地民族の神話と祭り—サイシャット族の小人祭	92	—	
1986年7月5日	98	大丸 弘	洋服とは何か	63	—	
1986年8月2日	99	中牧弘允	盆と夏祭り	57	—	
1986年9月13日	100	佐々木高明	稲作文化の成立と展開	87	—	
1986年10月4日	101	伊藤幹治	民族学からみた日本人	72	—	
1986年11月1日	102	君島久子	龍神伝説と祭り	98	—	
1986年12月6日	103	長野泰彦	未開放地域をゆく—大凉山彝族のくびと	83	—	
1987年1月10日	104	大森康宏	映像を通じたコミュニケーション	57	—	
1987年2月7日	105	吉田集而	風呂の起源	79	—	
1987年3月7日	106	小谷凱宣	カナダ・エスキモーの版画	35	—	
1987年4月4日	107	守屋 毅	エドワード・S・モースと日本	65	—	
1987年5月9日	108	崎山 理	語族とは何か	68	—	
1987年6月6日	109	宮本 勝	メトロ・マニラのイスラム教徒	74	—	
1987年7月4日	110	八杉佳穂	土器にみるマヤ社会	70	—	
1987年8月1日	111	杉村 棟	じゅうたんがかたる文化	68	—	
1987年9月5日	112	櫻井哲男	子どもの遊びと文化	51	—	
1987年10月3日	113	松山利夫	狩人の夢と食物規制—オーストラリア・アボリジニの世界から	48	—	
1987年11月7日	114	永ノ尾信悟	インドの土器とテラコッタ	39	—	
1987年12月5日	115	田辺繁治	北タイの守護霊儀礼	52	—	
1988年1月9日	116	加藤九祚	ユーラシア文化史の旅—マルコ・ポーロ NOWから	78	—	
1988年2月6日	117	瀬川昌久	香港新界の祖先祭祀	56	—	
1988年3月5日	118	石毛直道	発酵食品の文化	62	—	
1988年4月2日	119	小山修三	縄文の民族学—現代日本文化のルーツ	51	—	
1988年5月7日	120	秋道智彌	イースター島の鳥人のなぞ	44	—	
1988年6月4日	121	藤井龍彦	アンデス北部高地民の環境利用	82	—	
1988年7月2日	122	中山和芳	首長のいる島とない島—ミクロネシアの伝統と変容	45	—	
1988年8月6日	123	大塚和夫	マホメットとムハンマド	59	—	
1988年9月3日	124	端 信行	「仮面の王国」10年	57	—	
1988年10月1日	125	江口一久	アフリカニストのみた中国	53	—	
1988年11月5日	126	杉田繁治	文明の比較について	48	—	
1988年12月3日	127	杉本尚次	木曜島と日本人—トレス海峡の人とくらし	47	—	
1989年1月7日	128	石森秀三	旅と観光の民族学	50	—	
1989年2月4日	129	須藤健一	ミクロネシアの女の一生	42	—	
1989年3月4日	130	杉島敬志	リオ族の妖術信仰	40	—	
1989年4月1日	131	佐々木史郎	中国ホロンバイ草原のエベンキ族	40	—	
1989年5月13日	132	福井勝義	出会いときずな—集団の編成の特性をさぐる	69	—	
1989年6月3日	133	黒田悦子	土地をめぐる闘争—スペイン系アメリカ人の来た道	54	—	
1989年7月1日	134	野村雅一	近世ヨーロッパの飢えの精神史	63	—	
1989年8月5日	135	山本泰則	民博コンピュータの現場	58	—	
1989年9月2日	136	栗田靖之	チベットの大河「ヤルツァンポ」の大湾曲点	68	—	
1989年10月7日	137	大給近達	アマゾンのインディオ文化からみる文明観	42	—	
1989年11月11日	138	山本紀夫	食卓のアンデス	250	—	

友の会講演会(大阪)

開催年月日	回	講師	タイトル	会場参加者	オンライン	備考
1989年12月2日	139	大丸 弘	西洋のエチケツブックと日本人	57	—	
1990年1月13日	140	松原正毅	東アジアの聖山信仰	47	—	
1990年2月3日	141	中牧弘允	むかし大名、いま社長—高野山の会社供養塔	17	—	
1990年3月3日	142	片倉もとこ	海の遊牧民	70	—	
1990年4月7日	143	松山利夫	アボリジニの雨ごと雨やみ	30	—	
1990年5月12日	144	和田正平	「はだか」と「着る」ことの意味—裸族は存在するか	39	—	
1990年6月2日	145	久保正敏	科学技術から見た戦後	48	—	
1990年7月7日	146	長野泰彦	七タとたなばた	46	—	
1990年8月4日	147	朝倉敏夫	韓国文化の両面性	69	—	
1990年9月1日	148	吉本 忍	東アジアと東南アジアの手織機	41	—	
1990年10月6日	149	林 行夫	タイ＝ラオ族の仏教と精霊信仰	36	—	
1990年11月10日	150	松澤員子	変容する台湾少数民族社会と民族運動	35	—	
1990年12月8日	151	宮本 勝	北ボルネオの「法」と儀礼	27	—	
1991年1月12日	152	庄司博史	ソ連の北方少数民族の言語政策	39	—	
1991年2月2日	153	森田恒之	民族資料を虫害から守る	31	—	
1991年3月2日	154	石森秀三	民族学からみた観光と芸術	49	—	
1991年4月6日	155	吉田集而	ニューギニア低地社会のイベント	67	—	
1991年5月11日	156	藤井龍彦	アンデス、クスコの市場	79	—	
1991年6月1日	157	小山修三	犬の民族学—アボリジニの村から	74	—	
1991年7月6日	158	端 信行	カメルーン高地の情報革命	77	—	
1991年8月3日	159	ジョティンドラジェイン	儀礼とインド芸術	78	—	
1991年9月7日	160	大森康宏	「記録」と「創造」の映像文化	65	—	
1991年10月5日	161	杉本尚次	アメリカ南部の旅—伝統的建物の保存と活用	76	—	
1991年11月9日	162	櫻井哲男	民族トリズム	78	—	
1991年12月7日	163	大塚和義	アイヌとアムール流域の熊送り	78	—	
1992年1月11日	164	秋道智彌	海の幸とグルメ文化	82	—	
1992年2月1日	165	須藤健一	母系社会と性文化	74	—	
1992年3月7日	166	杉村 棟	カフカス・ダゲスタンの文化と民族	86	—	
1992年4月4日	167	塚田誠之	中国南部少数民族の“漢化”の諸側面	68	—	
1992年5月2日	168	小長谷有紀	京都・地蔵盆の空間	84	—	
1992年6月6日	169	田村克己	ラオスの人とくらし	78	—	
1992年7月4日	170	近藤雅樹	現代若者の古い事情	74	—	
1992年8月1日	171	周 達生	沖縄から見た日中の食文化	111	—	
1992年9月5日	172	中野不二男	ブーメランをもった狩人	82	—	
1992年10月3日	173	河内まき子	歩き方の比較—アボリジニと日本人	78	—	
1992年11月7日	174	板良敷敏	子どもの造形遊び	81	—	
1992年12月5日	175	杉田繁治	日本の技術文明	71	—	
1993年1月9日	176	八杉佳穂	カカオの文化史	69	—	
1993年2月6日	177	佐藤浩司	古代人のすまい	61	—	
1993年3月6日	178	石毛直道	すしの文化史	120	—	
1993年4月3日	179	小川 了	大西洋の小国、カボ・ヴェルデからアフリカをみる	68	—	
1993年5月8日	180	南真木人	ネパールの森林荒廃と焼畑	78	—	
1993年6月5日	181	黒田悦子	開かれた先住民社会	71	—	
1993年7月3日	182	大塚和義／知里むつみ	アイヌ文化と海洋船イタオマチブの復原	88	—	
1993年8月7日	183	友枝啓泰	アンデスの今昔	76	—	
1993年9月11日	184	松山利夫	都市に生きるアボリジニ	58	—	

友の会講演会(大阪)

開催年月日	回	講師	タイトル	会場参加者	オンライン	備考
1993年10月2日	185	野村雅一	イタリアの疫病神—イエツタトーレとその防御法	63	—	
1993年11月1日	186	吉本 忍	ジャワ更紗の伝統と現代	69	—	
1993年12月4日	187	泉 幽香	五島・福江島のチャンココ	57	—	
1994年1月8日	188	栗田靖之	探検と日本人	64	—	
1994年2月5日	189	朝倉敏夫	韓国人の義理・人情	61	—	
1994年3月5日	190	森 明子	ヨーロッパのお墓	63	—	
1994年4月2日	191	江口一久	西アフリカの昔話—ウサギとカメ	84	—	
1994年5月7日	192	中牧弘允	中南米の陶酔する文化	63	—	
1994年6月4日	193	松原正毅	アルタイの人びと	104	—	
1994年7月2日	194	安村直己	インディオが反乱するとき—植民地期メキシコの場合	64	—	
1994年8月6日	195	端 信行	民族の文化、地域の文化	58	—	
1994年9月3日	196	杉島敬志	インドネシア辺境からみた国のイメージ	69	—	
1994年10月1日	197	杉本尚次	伝統文化の島・西サモア30年の軌跡	62	—	
1994年11月5日	198	和田正平	現代アフリカの寡婦たち—束縛から自立へ	53	—	
1994年12月3日	199	福岡正太	ガムラン・ドゥグン—現代インドネシアの伝統音楽	65	—	
1995年1月28日	200	石毛直道／小山修三	対麵討論—文化人類学者 VS 讃岐うどん学者	98	—	
1995年3月4日	201	園田直子	古今東西の絵の具	45	—	
1995年4月1日	202	落合一泰	音のフォークロア—メキシコの声・音・祭	85	—	
1995年5月6日	203	千葉 泉	信仰と遊び—チリの宗教民謡	71	—	
1995年6月3日	204	久保正敏	流行歌(はやりうた)の民俗学	39	—	
1995年7月1日	205	友枝啓泰	アマゾンの土器づくり	46	—	
1995年8月5日	206	上杉富之	つくられた民族、ボルネオのカダザン族	51	—	
1995年9月2日	207	清水昭俊	「礼」に生きる人びと—ミクロネシア・ポーンペイ島の社会	51	—	
1995年10月7日	208	小泉潤二	現代「マヤ」の衣装とエスニシティ	60	—	
1995年11月4日	209	星野利枝	マヤの織物—ウィビルのお話	45	—	
1995年12月2日	210	杉本良男	獅子の民と虎の民—スリランカの民族問題	52	—	
1996年1月13日	211	林 勲男	楽園の島々—南太平洋のイメージ形成	85	—	
1996年2月3日	212	崎山 理	現代アジアの文字	60	—	
1996年3月2日	213	新免光比呂	ルーマニア農村の過去と現在	54	—	
1996年4月6日	214	中牧弘允	現代日本社会と新宗教	69	—	
1996年5月11日	215	栗本英世	現代アフリカと民族紛争	68	—	
1996年6月1日	216	松原正毅	民族問題とは何か	84	—	
1996年7月6日	217	藤井龍彦	ペルー北海岸、チュルカナスの焼きもの	70	—	
1996年8月3日	218	南真木人	ネパールの川とくらし	54	—	
1996年9月7日	219	熊倉功夫	ハインリッヒ・シーボルトのコレクション—明治時代に集められた日本の文化財	118	—	
1996年10月5日	220	栗田靖之	マルチメディアは博物館を変えるか？	34	—	
1996年11月2日	221	長野泰彦	チベットのボン教文化	60	—	
1996年12月7日	222	押川文子	バルダー(女性隔離)からミニスカートへ—インド近代史のなかの女性たち	56	—	
1997年1月11日	223	山本紀夫	酒の民族誌① テキーラは何の酒？—知られざる中南米の酒	68	—	
1997年2月1日	224	重田真義	酒の民族誌② 大地の恵みを飲む—アフリカの酒づくり	67	—	
1997年3月1日	225	吉田集而	酒の民族誌③ 世界の酒の系譜	86	—	
1997年4月5日	226	端 信行	これからの世界を見る眼	71	—	
1997年5月10日	227	山田睦男	メキシコ市大地震と居住政策—阪神大震災との比較	48	—	
1997年6月7日	228	笹原亮二	郷土玩具の民俗学	60	—	
1997年7月5日	229	杉田繁治	インターネット時代の民族学	65	—	
1997年8月2日	230	南真木人	アジアのあそび① ネパールのケル	62	—	

友の会講演会(大阪)

開催年月日	回	講師	タイトル	会場参加者	オンライン	備考
1997年9月6日	231	小山修三	縄文人の見た夢	85	—	
1997年10月11日	232	林 勲男	オセアニアにとっての異文化像	46	—	
1997年11月8日	233	小長谷有紀	アジアのあそび② モンゴルのナーダム	54	—	
1997年12月6日	234	朝倉敏夫	アジアのあそび③ 朝鮮半島の民俗ノリ	30	—	
1997年1月10日	235	大森康宏	日本の元服式—京都静原の烏帽子儀	63	—	
1998年2月7日	236	池谷和信	南部アフリカの農村と都市—ニカウさんからマンデラさんまで	39	—	
1998年3月7日	237	庄司博史	サーミ人を生きたる—都市のサーミ人	45	—	
1998年4月4日	238	園田直子	民族資料のなかをのぞく	48	—	
1998年5月2日	239	小川 了	牧畜民フルベと木の器	49	—	
1998年6月8日	240	藤井龍彦	アンデスの民衆芸術	67	—	
1998年7月4日	241	西尾哲夫	「アラジン」は中国人？	66	—	
1998年8月1日	242	小長谷有紀	こうしてできた大モンゴル展	136	—	
1998年9月5日	243	等々力政彦	トゥバ民族の民謡—喉歌(ホーメイ)をきく	184	—	
1998年10月3日	244	高野俊明	モンゴル草原の「白いご馳走」—乳製品	134	—	
1998年11月7日	245	松川 節	モンゴル遊牧民の文字	146	—	
1998年12月5日	246	水野信男	民族楽器の表情	55	—	
1999年1月9日	247	岸上伸啓	カナダ・イヌイットの現在—先住民政策の諸影響	62	—	
1999年2月6日	248	三島禎子	都市の顔—ダカルで働く人びと	59	—	
1999年3月6日	249	森南海子	着る愉しみ、つくる面白さ	80	—	
1999年4月3日	250	石森秀三	南太平洋のカニバリズム—ヒトはなぜ人をたべるのか？	133	—	
1999年5月8日	251	林 勲男	プロセスとしての収集—ジョージ・ブラウン・コレクションにみる西欧と南太平洋	70	—	
1999年6月5日	252	吉田憲司	子供たちのみた地球—国連子供環境ポスター原画コレクションをめぐる	43	—	
1999年7月3日	253	小松和彦	京都祇園祭と崇り神信仰	72	—	
1999年8月7日	254	佐々木史郎	シベリア少数民族の狩猟活動—市場経済と自然保護のはざま	65	—	
1999年9月11日	255	中牧弘允	越境するアマゾンのシャーマニズム	85	—	
1999年10月2日	256	池谷和信	カラハリ砂漠のアーティスト—親指ピアノの世界から	74	—	
1999年11月6日	257	福岡正太	海を越えたガムラン	77	—	
1999年12月4日	258	松山利夫	アボリジナル・サインを読む—中央砂漠の先住民アボリジナル社会から	55	—	
2000年1月8日	259	笹原亮二	獅子の芸能 — 伊勢大神楽を中心に	74	—	
2000年2月6日	260	新免光比呂	ルーマニアの農村世界—人びとの生活を彩る伝統行事とキリスト教信仰	61	—	
2000年3月4日	261	立川武蔵	日本人とマンダラ	70	—	
2000年4月8日	262	橋爪紳也	中国雑技の故郷—表現する身体	48	—	
2000年5月6日	263	大野木啓人	日常空間から劇場空間	46	—	
2000年6月3日	264	佐藤浩司	住まいの民族誌① 定住と移動—ボルネオ熱帯雨林の住まい	51	—	
2000年7月1日	265	朝倉敏夫	旅人の憩いの場「酒幕」—「朝鮮半島の文化」展示替えによせて	67	—	
2000年8月5日	266	大森康宏	カンボジア伝統舞踊の1世紀—映像と実演	93	—	
2000年9月2日	267	三島禎子	住まいの民族誌② —現代アフリカの大家族	30	—	
2000年10月7日	268	森栗茂一	命がつながる都市—大阪のエクスタシーと癒し	50	—	
2000年11月4日	269	林 勲男	住まいの民族誌③ 熱帯雨林のロングハウス—森の家、水の家、物語の家	34	—	
2000年12月2日	270	白杵 陽	中東和平とエルサレム問題	50	—	
2001年1月6日	271	黒田悦子	民族の運動と指導者たち—その様々な姿を考える	69	—	
2001年2月3日	272	塚田誠之	チワン(壮)族の春の祭り—中国南部少数民族の文化と「漢化」	62	—	
2001年3月3日	273	帯谷知可	中央アジアの20世紀—民族と国家のゆくえ	63	—	
2001年4月7日	274	秋道智彌	環境と文化を考える—民族学の立場から① 国境を越える蝶—雲南の山と少数民族のくらしの変貌	70	—	
2001年5月12日	275	阿部健一	環境と文化を考える—民族学の立場から② それぞれの熱帯林—ブームのあとで	52	—	
2001年6月2日	276	南真木人	環境と文化を考える—民族学の立場から③ 暮らしの中の環境意識—ネパールの村々から	44	—	

友の会講演会(大阪)

開催年月日	回	講師	タイトル	会場参加者	オンライン	備考
2001年7月7日	277	池谷和信	環境と文化を考える—民族学の立場から④ アフリカにおける野生動物と人々の暮らし	40	—	
2001年8月4日	278	中牧弘允	企業ミュージアムを考える① 神と仏の国の企業博物館—日本の会社文化を考える	34	—	
2001年9月1日	279	西尾哲夫	企業ミュージアムを考える② 一杯のコーヒーから	68	—	
2001年10月6日	280	大塚和義	北太平洋の交易世界—先住民と商品経済	69	—	
2001年11月3日	281	佐藤浩司	企業ミュージアムを考える③ 大工道具からのぞく先史日本の建築	45	—	
2001年12月8日	282	三井 泉	企業ミュージアムを考える④ 資生堂スタイル—文化創造企業の博物館	33	—	
2002年1月5日	283	大津留(北川)智恵子	アメリカにとっての中東—認識と政策のギャップを探る	69	—	
2002年2月2日	284	白杵 陽	「イスラム原理主義」とはなにか—中東における宗教と政治	97	—	
2002年3月2日	285	帯谷知可	中央アジアにおける民族主義とイスラム	91	—	
2002年4月6日	286	金 美善	韓国人の言語生活と韓国語—なぜ韓国人は嬉しいとき「嬉しくて死にそう」というのか	70	—	
2002年5月11日	287	林 史樹	韓国で移動商人が活躍できるのはなぜか	44	—	
2002年6月1日	288	金 香来	現代韓国の葬式事情—ソウルの「病院葬式場」を事例に	55	—	
2002年7月6日	289	横山廣子	雲南の絞り藍染め—そのたどった道の謎をめぐる	50	—	
2002年8月3日	290	高橋晴子	世界の民族服と日本の洋装100年—田中千代コレクション	72	—	
2002年9月7日	291	寺田吉孝	ミンダナオ島の音楽—コングと太鼓のアンサンブル	58	—	
2002年10月5日	292	熊倉功夫	包みの文化とその美しさ—世界大風呂敷展に寄せて	92	—	
2002年11月2日	293	高橋基樹	現代アフリカの紛争を考える① 「部族」紛争の理解は可能か—アフリカ経済研究の立場から	50	—	
2002年12月7日	294	栗本英生	現代アフリカの紛争を考える② アフリカの紛争と難民—人類学研究の立場から	56	—	
2003年1月11日	295	松田素二	現代アフリカの紛争を考える③ 紛争のなかから希望をみる—社会学研究の立場から	55	—	
2003年2月1日	296	立川武蔵	現代に生きるマンダラ① マンダラの歴史	120	—	
2003年3月1日	297	立川武蔵	現代に生きるマンダラ② 「聖なるもの」のすがた	100	—	
2003年4月5日	298	立川武蔵	現代に生きるマンダラ③ 空海とマンダラ	194	—	
2003年5月10日	299	林 勲男	くらしをつくる① パプアニューギニア・自然災害からの生活再建	45	—	
2003年6月7日	300	片倉もところ	300回記念 世界平和と民族学の役割	257	—	
2003年7月5日	301	石井正子	くらしをつくる② フィリピン・紛争からの復興	36	—	
2003年8月2日	302	小森宏美	くらしをつくる③ パルト三国・政治体制の変化のなかで	54	—	
2003年9月6日	303	江口一久	西アフリカ口承文芸の魅力—おはなし村ができたわけ	65	—	
2003年10月4日	304	小長谷有紀	くらしをつくる④ モンゴル・環境保全型経済をつくる	51	—	
2003年11月1日	305	関 雄二	くらしをつくる⑤ ペルー・文化遺産を自らの手にとりもどす	47	—	
2003年12月6日	306	阿部健一	くらしをつくる⑥ 東ティモール・経済的自立をめざして	46	—	
2004年1月10日	307	大塚和義	アイヌの工芸 — 歴史と現在	83	—	
2004年2月7日	308	リアン・テルミ・ハタノ	ニホンに生きる多みんぞく① ブラジルのひとびと	54	—	
2004年3月6日	309	高畑 幸	ニホンに生きる多みんぞく② フィリピンのひとびと	41	—	
2004年4月3日	310	庄司博史	ニホンに生きる多みんぞく③ はじめての在日外国人展	66	—	
2004年5月8日	311	陳 天璽	ニホンに生きる多みんぞく④ 中国系のひとびと	64	—	
2004年6月5日	312	李愛俐娥	ソ連崩壊後の中央アジア少数民族社会の変貌—高麗人を中心に	52	—	
2004年7月3日	313	岸上伸啓	海を利用するひとびと① 北方先住民の生業活動	47	—	
2004年8月7日	314	赤嶺 淳	海を利用するひとびと② サンゴ礁の特殊海産物	50	—	
2004年9月4日	315	周 達生	われわれは文化を食べている—雑食の雑学より	50	—	
2004年10月2日	316	西尾哲夫	アラビアンナイトへの誘い① タカラジェンヌの千一夜—日本におけるアラビアンナイト受容の一断面	61	—	
2004年11月6日	317	山中由里子	アラビアンナイトへの誘い② 19世紀イギリスの手作り「おもちゃ劇場」—ホームエンターテインメントにあらわれたアラビアンナイト	43	—	
2004年12月4日	318	川添 裕	アラビアンナイトへの誘い③ 江戸のラクダ見物—混淆する異界・イメージ・多文化	42	—	
2005年1月8日	319	阿部健一	自然と共生する文化① 文化・生物の多様性—国際的レベルの共通認識のために	61	—	
2005年2月5日	320	日高真吾	自然と共生する文化② 変化する伝統工芸—漆をめぐる人の営み	47	—	
2005年3月5日	321	秋道智彌	自然と共生する文化③ サンゴ礁の海から自然と文化の多様性をかんがえる	48	—	
2005年4月2日	322	小山田徹/佐藤浩司	ハラハラドキドキする展示ができればるまで。	53	—	

友の会講演会(大阪)

開催年月日	回	講師	タイトル	会場参加者	オンライン	備考
2005年5月7日	323	山下里加/佐藤浩司	ありふれた日常をワクワクさせるアーティストたち。	56	—	
2005年6月4日	324	松園万亀雄	文化人類学への誘い 総説—文化人類学に何ができるのか	77	—	
2005年7月2日	325	佐々木史郎	文化人類学への誘い 基本編①「文化」 伝わる文化・変わる文化—民族学の文化研究	79	—	
2005年8月6日	326	岸上伸啓	文化人類学への誘い 基本編②「民族・人種」 ヒトを社会的に分類する—歴史的にみた民族概念と人種概念	83	—	
2005年9月3日	327	飯田 卓	文化人類学への誘い 基本編③「生態」 なりわいをみる—生態からみた人間・社会・行動	82	—	
2005年10月1日	328	杉本星子	ファッションからみるインド—ナショナル・ドレスとなった一枚の布	90	—	
2005年11月5日	329	三尾 稔	変わるインドの都市と人びと	61	—	
2005年12月3日	330	信田敏宏	文化人類学への誘い 基本編④「社会・親族」 親族と生きる社会—ひとのつながりと生きざま	71	—	
2006年1月7日	331	齋藤 晃	文化人類学への誘い 基本編⑤「表象」 考えるための道具を考える—表象のテクノロジー —	63	—	
2006年2月4日	332	池谷和信	文化人類学への誘い 応用編①「環境」 地球環境問題の人類学—クジラの保護と利用	67	—	
2006年3月4日	333	栗本英世	文化人類学への誘い 応用編②「紛争」 平和構築の人類学	68	—	
2006年4月1日	334	日高真吾	郷土玩具について—みんぱくキッズワールドの展示資料を中心に	55	—	
2006年5月6日	335	広瀬浩二郎	バリアフリーとフリーバリア—障害を「いやす」社会から「いかす」社会へ	52	—	
2006年6月3日	336	山本博之	北ボルネオの「海の民」と「陸の民」	49	—	
2006年7月1日	337	三尾 稔	文化人類学への誘い 応用編③「宗教」 信仰の様々なかたち	64	—	
2006年8月5日	338	樫永真佐夫	文化人類学への誘い 応用編④「食」 食べるもの、食べられるもの	62	—	
2006年9月2日	339	林 勲男	文化人類学への誘い 応用編⑤「災害」 自然災害が浮き彫りにする文化と社会	60	—	
2006年10月7日	340	吉本 忍	近・現代更紗事情—ロウケツ染めとプリントの更紗	75	—	
2006年11月4日	341	内海涼子	インドネシアのジャワ更紗とプリント更紗	48	—	
2006年12月2日	342	川口幸也	文化人類学への誘い 応用編⑥「芸術」 アートの輪郭	53	—	
2007年1月6日	343	中牧弘允	マルチカルンダーに見る在日外国人の暮らしと文化	43	—	
2007年2月3日	344	横山廣子	文化人類学への誘い 応用編⑦「家族」 アジアから私たちの家族を考える	61	—	
2007年3月3日	345	佐藤浩司	文化人類学への誘い 応用編⑧「住」 住むこと・生きること	49	—	
2007年4月7日	346	大森康宏	聖地・巡礼—視覚と現実のはざま	92	—	
2007年5月5日	347	竹沢尚一郎	フランスにおけるイスラーム	67	—	
2007年6月2日	348	新免光比呂	社会主義と宗教—旧ソ連とルーマニアの比較から	67	—	
2007年7月7日	349	韓 敏	色のシンボリズム—中国人の宗教観とその変化	53	—	
2007年8月4日	350	広瀬浩二郎	日本宗教の異文化伝道—米国における天理教の布教戦略	36	—	
2007年9月1日	351	佐々木利和	国の指定文化財とアイヌの工芸品	38	—	
2007年10月6日	352	印東道子/白川千尋	オセアニアのくらし—手仕事と癒しについて	51	—	
2007年11月3日	353	飯田 卓	海を生きぬく技術—マダガスカルにおける漁業発展と技術伝承	48	—	
2007年12月1日	354	小林繁樹	道具研究の現在—新たな道具定義の提唱	38	—	
2008年1月5日	355	川村邦光	洋食文化の場	46	—	
2008年2月2日	356	笹原亮二	佐世保と洋食—ハンバーガー・レモンステーキ・海軍シチュー	49	—	
2008年3月1日	357	安井真奈美	雑誌「家の光」にみる農村の洋食	36	—	
2008年4月5日	358	横山廣子	中国・雲南の民族文化を解く3つの鍵	76	—	
2008年5月3日	359	南真木人	政体変革期のネパール—王制から共和制へ？	46	—	
2008年6月7日	360	佐々木史郎	人類学者×人類学者① レヴィ=ストロースとの出会い—マルクス主義と構造主義のはざままで	51	—	
2008年7月5日	361	三尾 稔	人類学者×人類学者② フィールドで人類学すること—マリノフスキーの切りひらいた新地平	45	—	
2008年8月2日	362	岸上伸啓	人類学者×人類学者③ カナダ先住民研究のパイオニア フランツ・ポアス	49	—	
2008年9月6日	363	竹沢尚一郎	人類学者×人類学者④ 友愛の人 マルセル・モース	48	—	
2008年10月4日	364	吉田憲司	新・西方・東方見聞録—「アジアとヨーロッパの肖像」展の見せかた・見かた	57	—	
2008年11月1日	365	森田恒之	国際協力で博物館をつくる—ヨルダンと東ティモールの事例から	34	—	
2008年12月6日	366	鈴木七美	病をなおす① オルタナティブという思想—医療とライフスタイルから	45	—	
2009年1月10日	367	松尾瑞穂	病をなおす② 伝統医療の変容—南アジアの事例から	47	—	
2009年2月7日	368	池田光穂	病をなおす③ 医療人類学の現在—癒しの多様なかたち	53	—	

友の会講演会(大阪)

開催年月日	回	講師	タイトル	会場参加者	オンライン	備考
2009年3月7日	369	藤井龍彦	アンデス文明の遺跡が語る人びとの暮らし—高地から海岸砂漠まで	58	—	
2009年4月4日	370	八杉佳穂	民族資料と美意識の響きあい—出会いの妙から生まれたもの	39	—	
2009年5月2日	371	長野泰彦	チベットのヤングー儀礼—幸運をよぶいのり	52	—	
2009年6月6日	372	立川武蔵	ボン教とチベット仏教	81	—	
2009年7月4日	373	池谷和信	先住民のいま① 狩猟採集は「先住民」の権利か?—アフリカにて	47	—	
2009年8月1日	374	信田敏宏	先住民のいま② ダレがダレを「先住民」とよぶ?—東南アジアにて	43	—	
2009年9月5日	375	松山利夫	先住民のいま③ 共生の道をさぐる「先住民」—オーストラリアにて	44	—	
2009年10月3日	376	岸上伸啓	カナダ先住民のこれまでとこれから—生業と文化の権利を中心に	45	—	
2009年11月7日	377	関 雄二	人類学者×人類学者⑤ 泉靖一と戦後日本の人類学研究のあゆみ—南米研究を中心に	44	—	
2009年12月5日	378	野林厚志	人類学者×人類学者⑥ 鳥居龍蔵、鹿野忠雄、馬淵東一—台湾に魅せられた人類学徒たち	43	—	
2010年1月9日	379	西尾哲夫	アラブからみたヨーロッパ—ナポレオンのエジプト遠征をめぐって	56	—	
2010年2月6日	380	杉本良男	ガンディーの大英帝国	55	—	
2010年3月6日	381	田村克己	アジアにとってのアジア	40	—	
2010年4月3日	382	須藤健一	文化人類学に生きる—館長就任1周年を迎えて	47	—	
2010年5月1日	383	佐々木利和	1つの列島、2つの国家、3つの文化	34	—	
2010年6月5日	384	新免光比呂	東西文明の融合都市、イスタンブール	44	—	
2010年7月3日	385	庄司博史	日本に暮らす外国人の今—特別展「多みんぞくニホン」その後	24	—	
2010年8月7日	386	日高真吾	被災した文化財が語りかける歴史と文化の記憶	31	—	
2010年9月5日	387	鈴木七美	19世紀アメリカのユートピア思想—L. M. オルコット『若草物語』の軌跡から	21	—	
2010年10月2日	388	川口幸也	美術に映るアフリカの位置—エル・アナツイのアフリカ	41	—	
2010年11月6日	389	竹沢尚一郎	レヴィーストロースは20世紀に何をもたらしたか	39	—	
2010年12月4日	390	八杉佳穂	マヤの暦について—2012年まであと1年	42	—	
2011年1月8日	391	菊澤律子	ことばの歴史・ひとの移動史	61	—	
2011年2月5日	392	長野泰彦	日本におけるチベット研究のはじまり—青木文教のたどった道	39	—	
2011年3月5日	393	福岡正太	ジャワの芸能にみるマハーバーラタ	33	—	
2011年4月2日	394	小長谷有紀	ウメサオタダオのすべて	65	—	
2011年5月7日	395	石毛直道	梅棹忠夫の人となり	62	—	
2011年6月4日	396	吉田憲司	梅棹忠夫と民族誌写真	45	—	
2011年7月2日	397	上羽陽子	織フェルトの敷物づくり—かれらはなぜつくり続けるのか?	34	—	
2011年8月6日	398	須藤健一	みんばくによみがえるオセアニアのこころ—3回の収集の旅から	35	—	
2011年9月3日	399	白川千尋	蚊帳に見えない蚊帳のはなし(中止)	—	—	中止
2011年10月8日	400	佐々木史郎	日本の人類学の黎明とアイヌ文化	50	—	
2011年11月5日	401	朝倉敏夫	みんばくコレクションをかたる 75年ぶりの帰郷—民博の韓国・蔚山(ウルサン)コレクションより	34	—	
2011年12月3日	402	横山廣子	ビデオテークより ベー族の映像民族誌—伝えたいことをどう伝えるかの葛藤	38	—	
2012年1月7日	403	齋藤 晃	フィールドワークの醍醐味を語る① アマゾン川上流のキリスト教文化—ボリビア、モホス平原の自然と歴史	48	—	
2012年2月4日	404	鈴木 紀	フィールドワークの醍醐味を語る② マヤから世界へ—私のフィールドワーク体験	37	—	
2012年3月3日	405	陳 天璽	世界のパスポート／パスポートの世界	37	—	
2012年4月7日	406	樫永真佐夫	ベトナム北部山地における盆地民と山地民	39	—	
2012年5月5日	407	久保正敏	考現学と民族学	42	—	
2012年6月2日	408	久保正敏	タイムカプセルとしての民家模型—なぜ縮尺が1/10なのか	40	—	
2012年7月7日	409	白川千尋	みんばくコレクションをかたる 蚊帳に見えない蚊帳のはなし	38	—	
2012年8月4日	410	田村克己	ビルマ／ミャンマーの「絆」の力	36	—	
2012年9月1日	411	吉田憲司	聖書を生きる人びと—南部アフリカにおけるキリスト教独立教会の現在	32	—	
2012年10月6日	412	吉本 忍	世界の織機と異形の織物	38	—	
2012年11月3日	413	三尾 稔	ビデオテークより 祭礼の変容を映像で見る—インド・グジャラートの女神祭礼	32	—	
2012年12月1日	414	南真木人	みんばくコレクションを語る ネパールの金のはなし	33	—	

友の会講演会(大阪)

開催年月日	回	講師	タイトル	会場参加者	オンライン	備考
2013年1月5日	415	宇田川妙子	時間の変わり目—クリスマスからイースターにかけての祝祭から	50	—	
2013年2月2日	416	齋藤玲子	みんなくコレクションをかたる 明治～昭和初期の樺太資料の収集者たち	39	—	
2013年3月2日	417	小林繁樹	フィールドワークを語る ヨソモノが感じ、考えたこと	35	—	
2013年4月6日	418	飯田 卓	マダガスカル中央高地のザフィマニリ文化	29	—	
2013年5月4日	419	ゴルダン・ニコロフ	マケドニアの陶器と食文化	39	—	
2013年6月1日	420	菅瀬晶子	金曜日はムジャッダラの日—アラビア語圏キリスト教徒のくらし	43	—	
2013年7月6日	421	野林厚志	異猫のイノベーション—動物との根比べ	27	—	
2013年8月3日	422	池谷和信	日本の森とミツバチと人	37	—	
2013年9月7日	423	伊藤敦規	みんなくコレクションをかたる カチーナ人形の作り手たち—40年後の「もの語り」の可能性	37	—	
2013年10月5日	424	小島摩文	渋谷敬三の「民具」へのこだわり	40	—	
2013年11月2日	425	小山修三	くすりの民族学	42	—	
2013年12月7日	426	信田敏宏	フィールドワークを語る ドリアン王国探訪記	32	—	
2014年1月11日	427	藤本透子	みんなくコレクションをかたる 中央アジアの民家の現在	32	—	
2014年2月1日	428	関 雄二	神殿更新で社会が変わる—南米アンデス文明の誕生	32	—	
2014年3月1日	429	小長谷有紀	梅棹忠夫のモンゴル調査をたどる	52	—	
2014年4月5日	430	塚田誠之	新 中国地域の文化展示より 中国最大の少数民族、チワン(壮)族の現在(いま)	35	—	
2014年5月3日	431	韓 敏	新 中国地域の文化展示より 漢族はなぜ家族を大切にするのか	37	—	
2014年6月7日	432	菅瀬晶子	多みんぞくの街・新大久保とハラルフード産業	37	—	
2014年7月5日	433	日高真吾/呉屋淳子	ウチナンチューと教育	36	—	
2014年8月2日	434	朝倉敏夫	植民地期に海を渡った日本の食	33	—	
2014年9月6日	435	岸上伸啓	極北の孤島グリーンランドにおける気候変動と文化の変遷	45	—	
2014年10月4日	436	吉田憲司	アート(美術)と人類学のあいだ—特別展「イメージの力」によせて	43	—	
2014年12月6日	437	佐々木史郎	ナラ林文化を再考する	38	—	
2015年1月10日	438	久保正敏	グローバル時代の「知的生産の技術」—フォーラム型博物館の可能性	35	—	
2015年2月7日	439	南真木人	都市の婚礼、山村の婚礼—ネパール社会の現在(いま)を結婚式に探る	27	—	
2015年3月7日	440	池谷和信	いま、焼畑を考える—自然破壊か、それとも共生か	36	—	
2015年4月4日	441	宇田川妙子	世界の食文化を学ぶ① つくられる地域の食—スローフード発祥の地、イタリアから考える	44	—	
2015年5月2日	442	三尾 稔	躍動する南アジアの背景にせまる	46	—	
2015年6月6日	443	佐々木史郎	聖なる遺跡は物語る—アムール河の少数民族ナナイの神話をさぐる	51	—	
2015年7月4日	444	竹村嘉晃	ヨーガの隆盛をさぐる—現代インドにおける「伝統」の再評価	48	—	
2015年8月1日	445	豊山亜希	インドを彩る日本のタイル—インド近代化遺産のもうひとつの物語	22	—	
2015年9月5日	446	福留奈美	世界の食文化を学ぶ② 日韓の汁文化と発酵食品	46	—	
2015年10月3日	447	池谷幸信	世界の食文化を学ぶ③ 「医食同源」の思想—中国の食と漢方	45	—	
2015年11月7日	448	河合洋尚	世界の食文化を学ぶ④ 移住がつくる客家の食	37	—	
2015年12月5日	449	河原典史	世界の食文化を学ぶ⑤ カナダの魚食文化—日本人移民との関わりから	35	—	
2016年1月9日	450	信田敏宏	イスラーム化と向き合う先住民—新東南アジアから読みとく	43	—	
2016年2月6日	451	池谷和信	世界の食文化を学ぶ⑥ 博物館で食文化を考える—みんなく展示場をフィールドに見立てて	39	—	
2016年3月5日	452	佐藤浩司	祖先とともに住まう家—インドネシア、スンバ島で家屋を建てる	35	—	
2016年4月2日	453	吉本 忍	アイヌの衣服から見えてきたこと	55	—	
2016年5月7日	454	庄司博史	国境の地に生きる—フィンランド・カレリアとエストニア・セトゥの人のびと	49	—	
2016年6月4日	455	西尾哲夫	シンドバード航海記の成立の謎を追って—中東地域の民衆文化研究への新視点	41	—	
2016年7月2日	456	藤本透子	中央アジアのイスラーム—ある家族の物語から	55	—	
2016年8月6日	457	永田貴聖	フィリピンから海外に向かう人びと—日本と韓国の事例を中心に	22	—	
2016年9月3日	458	南真木人	ネパール、「市民社会」の再編を展望する	50	—	
2016年10月1日	459	鶴岡正樹	見世物の昭和・平成—人間ポンプ・安田里美のライフヒストリーから	51	—	
2016年11月5日	460	相島葉月	エジプトにおける空手道の新地平—大衆文化にさぐる中東のいま	28	—	

友の会講演会(大阪)

開催年月日	回	講師	タイトル	会場参加者	オンライン	備考
2016年12月3日	461	松尾瑞穂	インドにおける出産をめぐる信仰と産後ケア	30	—	
2017年1月7日	462	齋藤玲子/藤戸ひろ子	アイヌ文化を楽しむ学—関西での活動を例に	65	—	
2017年2月4日	463	山中由里子	世界各地のイスラーム—みんぱくでその広がりを考える	62	—	
2017年3月4日	464	吉岡 乾	パキスタン北西部の“異教徒”カラージャ人	55	—	
2017年4月1日	465	池谷和信	つなぐ・かざる・みせる—ビーズにさぐる人類の多様な営み	45	—	
2017年5月6日	466	飯泉菜穂子	第二言語としての日本手話—実感・体感的な手話言語案内	32	—	
2017年6月3日	467	松原正毅	みんぱく名誉教授シリーズ① 人類史のなかの遊牧	48	—	
2017年7月1日	468	吉田憲司	文明の転換点における博物館	54	—	
2017年8月5日	469	中牧弘允	みんぱく名誉教授シリーズ② 民族学で解く 千里ニュータウンと大阪万博	51	—	
2017年9月2日	470	佐々木史郎	シーボルト父子が集めたアイヌ文化	108	—	
2017年10月7日	471	岸上伸啓	カナダ先住民と建国150年—北西海岸先住民を事例に	40	—	
2017年12月2日	472	佐藤浩司	巨石の島に生きる—インドネシア・ニアス島の家屋と集落	47	—	
2018年1月6日	473	印東道子	タヒチとイースター島—楽園と崩壊の対比	64	—	
2018年2月3日	474	小山修三	日本文明の夜明け—梅棹忠夫と三内丸山遺跡	74	—	
2018年3月3日	475	齋藤玲子	藤戸竹喜の世界を深く知るために	57	—	
2018年4月7日	476	鈴木 紀	文化遺産としての日本万国博覧会—人類の進歩と調和を再考する	51	—	
2018年5月5日	477	秋道智彌	富士山—水と世界遺産を考える	54	—	
2018年6月2日	478	寺村裕史	カフィル・カラ遺跡とゾロアスター教—発掘調査で出土した木彫り板絵から読み解く	50	—	
2018年8月10日	479	中牧弘允	日本人のブラジル移住とコーヒー文化の逆流—カフェパウリスタ箕面喫店を中心に	22	—	
2018年9月1日	480	岸上伸啓	絶滅危惧生物と人の交わり—捕獲、鑑賞、保全を中心に	35	—	
2018年10月6日	481	高木 仁	地球時代の片隅で—あるインディアンとウミガメの物語	33	—	
2018年11月3日	482	我妻和樹/日高真吾	震災を経ても土地に生きる—南三陸町波伝谷、12年間の記録映像を通して	45	—	
2018年12月1日	483	踊 共二	アーミッシュの信仰と文化—歴史から現代へ	84	—	
2019年1月5日	484	須藤健一	南の島の贈りもの、民博からのお返し—研究成果の現地還元とは	51	—	
2019年2月2日	485	八木百合子	アンデスの箱型祭壇が伝えるもの—農村の生活から歴史記憶まで	49	—	
2019年3月9日	486	太田心平	キリスト教で読み解く韓国の歴史と文化	43	—	
2019年4月6日	487	谷 正人	イラン音楽の楽しみ—伝統打弦楽器サントウールを例に	95	—	
2019年5月4日	488	森下みさ子	紙人形と着せ替え遊び—遊ぶ身体記憶	37	—	
2019年6月1日	489	新免光比呂	『陽気な墓』をとおして考える生と死	55	—	
2019年7月6日	490	郡司みさお、藤本悠子	サウジアラビア女性の日常世界のいま・むかし	60	—	
2019年8月3日	491	杉本良男	若きガンディー	40	—	
2019年9月7日	492	古川不可知	エベレストの麓に生きる人びと—シェルパとヒマラヤ観光の現在	44	—	
2019年10月22日	493	湯本豪一/山中由里子	対談 幻獣！—そこに”在る”不思議な生きもの	99	—	
2019年11月2日	494	鈴木英明	マウシムを生きる人びとの歴史—19世紀ペルシア湾の生業、交易、移動	38	—	
2019年12月7日	495	立川武蔵	聖なるもの 俗なるもの	53	—	
2020年1月11日	496	奈良雅史	中国に生きるムスリムたち	50	—	
2020年2月1日	497	丹羽典生	博物学者 朝枝利男の生涯を追う	41	—	
2020年3月7日	498	—	—	—	—	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
2020年4月4日	499	—	—	—	—	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
2020年5月2日	500	—	—	—	—	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
2020年6月6日	501	—	—	—	—	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
2020年7月4日	502	—	—	—	—	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
2020年8月1日	503	齋藤 晃	福音以前の祖先の救済—キリストン時代の日本	55	48	オンライン配信併用で開催
2020年9月5日	504	石毛直道/吉田憲司/飯田 卓	第500回記念/梅棹忠夫生誕100年記念対談「知的生産のフロンティアの原点—探検家 梅棹忠夫を語る」	90	1,314	※500回記念事業だが、通算回数は504回とする。
2020年10月3日	505	岸上伸啓	トーテムポール—カナダ北西海岸先住民の宝	61	28	オンライン配信併用で開催
2020年11月14日	506	島村一平	呪術として生き残った仏教—社会主義期モンゴルにおける世俗化・仏教実践・還俗ラマ	45	42	オンライン配信併用で開催

友の会講演会(大阪)

開催年月日	回	講師	タイトル	会場参加者	オンライン	備考
2020年12月6日	507	小野林太郎	海洋考古学の世界—沖縄の水中文化遺産とその魅力	29	33	オンライン配信併用で開催
2021年1月9日	508	佐々木史郎	国立アイヌ民族博物館の魅力と課題—開館半年を迎えて	—	97	オンライン開催のみ
2021年2月6日	509	三島禎子	セネガル河上流域の変容と『文化週間』—故郷に残った人びとの選択	—	67	オンライン開催のみ
2021年3月6日	510	林 勲男	災害を後世に伝える—記録・供養・教訓	—	40	オンライン開催のみ
2021年4月3日	511	朝倉敏夫	『食』を学問にする	23	67	オンライン配信併用で開催
2021年5月1日	512	岡田恵美	アジア鍵盤楽器考	—	60	オンライン開催のみ
2021年6月5日	513	三尾 稔	女神となった疫病—インドの天然痘女神信仰	—	102	オンライン開催のみ
2021年7月3日	514	末森 薫	河西回廊の石窟寺院と美術	—	85	オンライン開催のみ
2021年8月7日	515	白川千尋	呪術を理解する—ヴァヌアツの邪術をめぐって	—	93	オンライン開催のみ
2021年9月4日	516	黒田賢治	金曜日には墓地で会いましょう—イランにおける死の多義性と『英霊』	—	77	オンライン開催のみ
2021年10月2日	517	辰巳明久/広瀬浩二郎/ 京都市立芸術大学学生有志	さわる名画ができるまで—その多様性と可能性	—	83	オンライン開催のみ
2021年11月6日	518	寺村裕史	カフィル・カラ遺跡の食糧庫跡—発掘調査成果から考える「食」の過去と現在	13	52	オンライン配信併用で開催
2021年12月4日	519	上羽陽子	着るだけではない布—役割や機能に注目して	13	50	オンライン配信併用で開催
2022年1月8日	520	神野知恵	家を廻る芸能のいま—伊勢大神楽の活動を中心に	13	46	オンライン配信併用で開催
2022年2月5日	521	関 雄二	記憶が生まれる、記憶をつむぐ—南米アンデス文明の文化遺産保護の道のり	15	35	オンライン配信併用で開催
2022年3月5日	522	諸 昭喜	病の語りにさぐる—産後風と韓国女性の生活	9	24	オンライン配信併用で開催
2022年4月2日	523	山極壽一/小長谷由紀	対談 モンゴルとSDGs	85	54	オンライン配信併用で開催
2022年5月7日	524	ヨーゼフ・クライナー/ 宇野文男/池谷和信	佐々木高明を語る—研究とその人物像	48	—	
2022年6月4日	525	赤尾光春	コサックの国で生まれたユダヤ人の大統領?—ウクライナとロシアにおける民族問題の諸相	43	50	オンライン配信併用で開催
2022年7月2日	526	平野智佳子	アボリジニの『酒狩り』	21	64	オンライン配信併用で開催
2022年8月6日	527	丹羽典生	探検、博物学、強制収容—朝枝利男とアメリカ	10	41	オンライン配信併用で開催
2022年9月3日	528	吉岡 乾	伝わらないことば	33	43	オンライン配信併用で開催
2022年10月1日	529	金 悠進	ポップカルチャーからみるインドネシア社会	16	34	オンライン配信併用で開催
2022年11月5日	530	須藤健一	カヌーとくらし—海に生きるオセアニアの人びと	33	33	オンライン配信併用で開催
2022年12月3日	531	小川さやか	分断された商世界をつなぐ「ローカル・インフルエンサー」—タンザニアにおける商人のソーシャルメディアの利用とビジネスの未来	22	33	オンライン配信併用で開催
2023年1月7日	532	中川 理	フランスのモン農民と考える「自由」	26	—	
2023年2月4日	533	堀田あゆみ	モンゴル遊牧民の“ルームツアー”—モノの配置にみる生存戦略	26	39	オンライン配信併用で開催
2023年3月4日	534	奈良雅史	中国における宗教と風紀—回族によるアルコール排斥運動の展開	18	34	オンライン配信併用で開催
2023年4月1日	535	関 雄二	巻き貝の神官墓』は語る—南米アンデス文明、成立過程の解明に迫る	18	25	オンライン配信併用で開催
2023年5月6日	536	鈴木 紀	ラテンアメリカの民衆芸術—キュレーションの挑戦	36	34	オンライン配信併用で開催
2023年6月3日	537	市野進一郎	文化のなかでまもられるキツネザル—マダガスカルにおける霊長類と人との関係	23	35	オンライン配信併用で開催
2023年7月1日	538	北原モコットウナン/齋藤玲子	つないでほどこ—アイヌとシサム	24	42	オンライン配信併用で開催
2023年8月5日	539	関野吉晴/池谷和信	人類の原点はハンターにあり!	70	—	
2023年9月2日	540	門馬一平	バブアニューギニアの貝と石のお金の話	25	45	オンライン配信併用で開催
2023年10月7日	541	岸上伸啓	アート制作から見た北アメリカ北西海岸先住民の社会・文化の変化	19	30	オンライン配信併用で開催
2023年11月4日	542	久保正敏	有明海のウナギから考える、生態系の未来	18	24	オンライン配信併用で開催
2023年12月2日	543	福内千絵	ヒンドゥー神像の美と信仰—飾りつけをめぐって	55	36	オンライン配信併用で開催
2024年1月6日	544	藤井真一	もめごとの扱い方—21世紀のガダルカナル島で平和について考える	20	44	オンライン配信併用で開催
2024年2月3日	545	宮前知佐子	新たな知の創造に向けて	14	33	オンライン配信併用で開催
2024年3月2日	546	松本雄一	周縁から読み解く文明の形成—神殿と文明の関わりを探る	26	36	オンライン配信併用で開催
2024年4月6日	547	柳沢英輔	ベトナム中部高原のゴング文化	38	30	オンライン配信併用で開催
2024年5月4日	548	吉田憲司	仮面とわたし	61	41	オンライン配信併用で開催